

て、ほとんどの例が1～3ヵ月までに低下傾向を示してきます。牛乳抗原にしても同じように除去すると、低下傾向が1～3ヵ月で認められてまいります(図3)。

これらの臍帯血についてIgE RASTにてチリダニ、鶏卵、牛乳の特異的IgE抗体は測定したがすべて検出されていない。しかし、出生後早期よりこれらの食物抗原による食物アレルギー発症(主としてアトピー性皮膚炎)をみる例がしばしはあり。これら43例について卵白および牛乳抗原を用いてリンパ球幼若化試験を行なった。

鶏卵抗原に対して27例中26例がStimulation Index (S.I.)が200以上を示した。牛乳抗原に対しては16例中13例がS.I.200以上を示した。生後3、4、6ヵ月の乳児でこのようなリンパ球幼若化試験で抗原特異的にこのようなS.I.高値を示すのは、

周産期にこれら食物抗原の感作を受けたことを示唆しており、これら乳児は当該食物抗原を除去を行なうと1ヵ月後よりS.I.が低下した。

これら乳児食物アレルギーではIgE抗体の関与したアレルギー症状ではなく。細胞性免疫反応に基づくアレルギー疾患が認められると考える成績であった。

また、これらの症例の中で陽性食物抗原の除去が十分に行なわれない症状では、リンパ球幼若化反応のS.I.の低下・陰性化が認められず、その後3ヵ月後には当該陽性抗原特異IgE抗体が検出されるようになる。

したがって、リンパ球幼若化反応はこれら食物アレルギー乳幼児において、陽性食物抗原の除去が十分に行なわれているか、否かの指標にもなり得ると考える。

表 1 食物の初回摂取による乳児の過敏反応と検査成績

症例	発症時の月齢	食物	症状	発症時間(分)	両親のアレルギー歴	栄養	皮内反応	RIST (U/ml)	RAST
1	7	卵	紅斑様発疹、口唇浮腫	5	—	母乳		137	卵白+2
2	4	卵	紅斑様発疹、口唇と眼瞼浮腫、流涙、鼻汁	10	—	混合		275	卵白+2 (牛乳+2)
3	5	牛乳	嘔吐、咳、喘鳴	10	母：湿疹、アレルギー性鼻炎	母乳	牛乳(±)	618	牛乳+3 (卵白+3)
4	5	卵	紅斑様発疹	5	—	人工		33	卵白+1
5	5	卵	口唇浮腫、紅斑、咳、喘鳴	10	母：アレルギー性鼻炎	混合		198	
6	7	牛乳	紅斑様発疹、嘔吐、下痢	30~60	母：湿疹、薬疹	母乳	牛乳(±)	462	牛乳+3 (卵白+3)
7	10	ビーナツ	紅斑様発疹、顔頸部のじんましん	5	—	人工		159	アスペルギルス+2
8	5	卵	紅斑様発疹	2	—	母乳		55	卵白+1 牛乳+1
9	10	卵	紅斑様発疹、嘔吐	30	—	混合	卵白(+)	62	卵白+3
10	11	卵	紅斑様発疹	5	母：湿疹、アレルギー性鼻炎	母乳	卵白(±)	715	卵白+2 (牛乳+1)
11	4	卵	紅斑様発疹、口唇浮腫、嘔吐	5	父：そば、卵アレルギー	母乳	卵白(+)	52	卵白+2

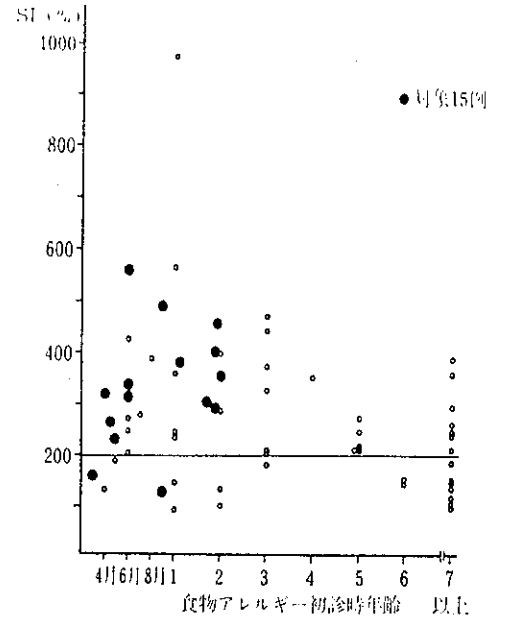


図 2 リンパ球幼若化試験(牛乳抗原)

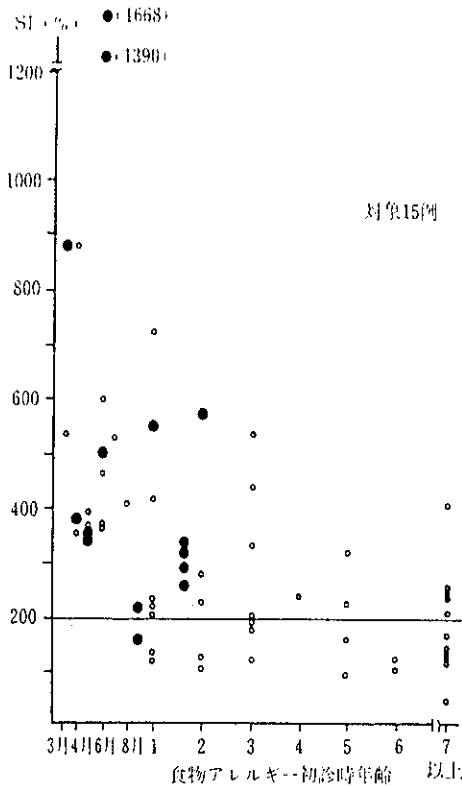


図 1 リンパ球幼若化試験(卵白抗原)

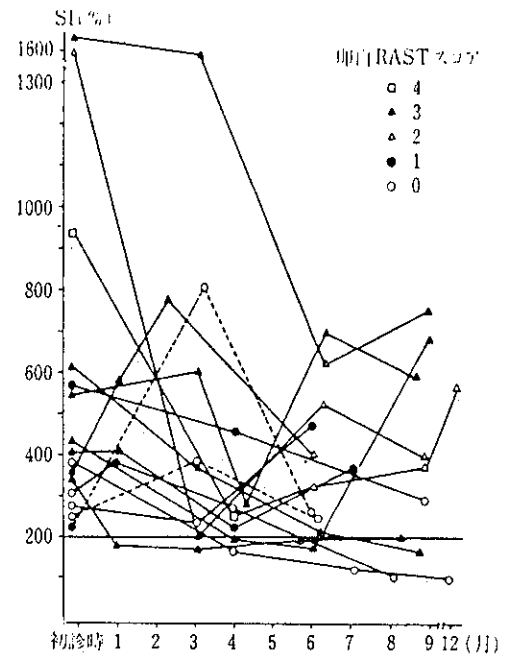


図 3 リンパ球幼若化反応と RAST スコアの変化(卵白)